# I 知っておきたい緑の知識





県庁松川沿い

高岡市大手町 ポケットパーク

## 富山城祉公園





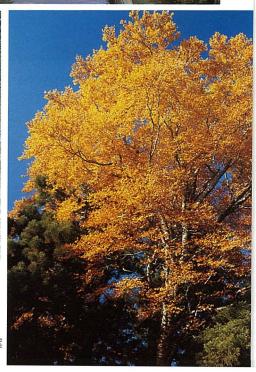
ヤマモミジ(砺波市五鹿屋)



高岡市駅南(市町村緑化推進事業)



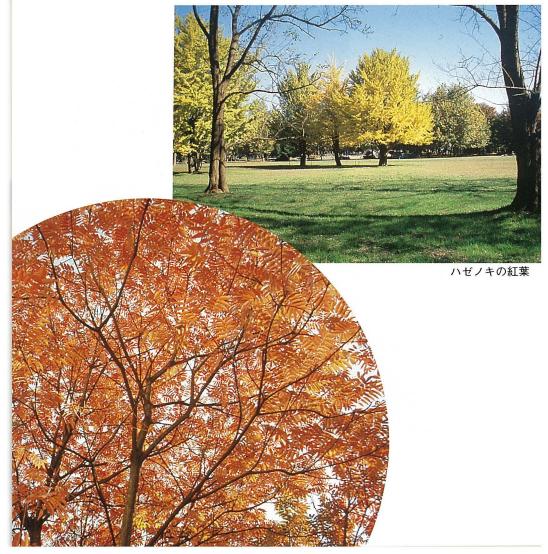
シラカバ



秋の紅葉



太閤山ランド



## 《 樹木の分類 》

樹木の種類は一般的なものから、特殊なものまで含めるとその数はきわめて多いが、わが国で一般に造園に使用されている樹種は、400種類程度といわれています。これらを葉の形態から分けると針葉樹、広葉樹、特殊樹木、タケおよびササ類の4種類になります。また葉の着生状態から分けると、年間を通じて葉が着生しているものを常緑樹、冬季に葉をすべて落とすものを落葉樹としています。

|   | 区  |   | 分 |   | 樹種                          |
|---|----|---|---|---|-----------------------------|
| 常 | 緑  | 針 | 葉 | 樹 | アカマツ、イチイ、エゾマツ、カイズカイブキ、クロマツ、 |
|   |    |   |   |   | コウヤマキ、コノテガシワ、ゴヨウマツ、サクラ、ヒマラ  |
|   |    |   |   |   | ヤスギ、ラカンマキ、スギ、ヒノキなど          |
| 落 | 葉  | 針 | 葉 | 樹 | カラマツ、メタセコイヤなど               |
| 常 | 緑  | 広 | 葉 | 樹 | アオキ、アセビ、シラカシ、カクレミノ、カナメモチ、キ  |
|   |    |   |   |   | ンモクセイ、ケヤキ、クチナシ、タイザンボク、モチノキ、 |
|   |    |   |   |   | ジンチョウゲ、ヒイラギ、ヤツデ、ツゲなど        |
| 落 | 葉  | 広 | 葉 | 樹 | アオギリ、ウメ、ケヤキ、コブシ、サクラ、サルスベリ、  |
|   |    |   |   |   | シラカバ、ドウダンツツジ、ネムノキ、ミズキ、モクレン、 |
|   |    |   |   |   | ヤマブキ、ユリノキなど                 |
| 特 | 殊  |   | 樹 | 木 | トウシュロ、ドラセナ、バショウ、キミガヨランなど    |
| タ | ケ、 | サ | サ | 類 | クロタケ、モウソウチク、オカメザサ、クマザサなど    |

## 9

## 樹木の特性

## (1) 樹 形

樹木の樹形には、自然に生育した自然樹形と人為的につくった人工樹形の2 種類があります。

#### ●仕立て方 人工仕立て



直幹づくり



曲幹づくり



玉仕立て



円錘形仕立て



円筒形仕立て



多幹づくり



株立ちづくり



声づくり



段づくり



しだれづくり

#### (2) 樹 高

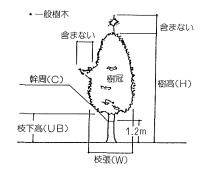
地表から幹の先端までの高さを樹高といいますが、先端が徒長しているとき、 その部分は樹高に含みません。自然に生長した状態で限界点に達した高さで分けますと、高木・中木・低木の3種類になりますが、中木と高木、低木のいずれかに入れて2種類とする場合があります。

高木 ケヤキ、ヒマラヤシーダ、シラ カシなど

中木 サザンカ、イヌツゲ、ツバキ、 サンゴジュなど

低木 ユキヤナギ、ナンテン、ハギ、 ツツジなど

## 樹木の寸法規格項目



#### (3) 陽樹と陰樹

樹木には、陽光が十分ないと衰弱・枯死する陽樹と、陽光が少なくても生育が可能な陰樹があります。

|   | 区 | 分 |   | 樹          | 種  |
|---|---|---|---|------------|--|
| 陽 |   |   | 樹 | キョウチクトウ、ピラ | ブキ、ヒマラヤシーダ、クロマツ、<br>カンサス、エニシダ、カイドウ、ケ<br>ラカシ、ムクゲ、レンギョウ、ハナ |
| 陰 |   |   | 樹 |            | オキ、カクレミノ、ツゲ、サンゴジ<br>, ジンチョウゲ、ヒイラギ、ヤツデ<br>ンリョウなど          |

#### (4) 移植の容易な樹木と困難な樹木

樹木の移植の不適期に動かすと、移植が容易なものでも失敗する場合があり、 樹木のなかには、移植の容易なものと非常に移植を嫌うものがありますので、 樹の性質を知り、移植の時期、方法、取扱いに十分注意しなければなりません。 また移植が困難な樹木は、適期に行っても失敗します。しかし事前に根回しを 行えば容易に移植できます。いずれの場合も枝葉をある程度切り込んでやるこ とが大切です。苗木は殆どの樹木は容易に移植できます。

移植の容易な樹木 サワラ、アオキ、サンゴジュ、シラカシ、ツツジ類、ツバキ、マサキ、アジサイ、ウメ、サルスベリ、トウカエデ、ヤナギ類、シュロ、ユッカ類など

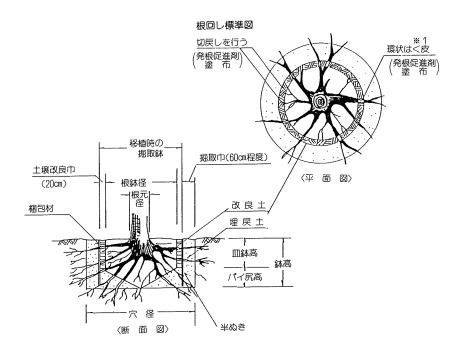
移植の困難な樹木 イチイ、スギ、トウヒ、モミ類、キョウチクトウ、クス、 ジンチョウゲ、タイサンボク、ピラカンサス、ケヤキ、コブシ、トチ、ネムノ キ、ハクモクレン、ホオノキ、ユリノキなど

#### ア、根回しとは

移植に必要な根の範囲をいちど切断し、細根を発生させることをいいます。 時期は根が発生しているときならいつでもかまいませんが、樹種、樹令によって異なります。一般には根が発生するまでにおおむね6ヵ月~1年かかる ので、移植の時期を考慮し、逆算して行います。

## イ、根回しの方法

- 枝を落とし、葉の量を減らしておく。
- みぞを掘り、樹木をささえる根を数本残して他は直角に切断する。
- 残した根は根鉢の外周から15cmの間を、材部に達するまで皮をはぐ(環状はく皮)。



## (5) 紅葉の美しい樹木

紅葉というと一般的には、秋の紅葉をいいますが、春の新葉の赤いのも美しいものです。紅葉とは赤いものだけでなく、黄葉、その他の美しい色も含めます。また、落葉樹の紅葉の美しさが一般的ですが、常緑樹にも紅葉の美しいものがあります。

| 区 分        | 樹種                         |
|------------|----------------------------|
| 秋から冬の紅葉    | イロハモミジ、ガマズミ、ドウダンツツジ、ナナカマド、 |
|            | ナンテン、ハゼ、ニシキギ、ハナミズキ、メギ、ヤマボウ |
|            | シ、ヤマモミジ、ハウチワカエデ、マユミなど      |
| 春の新葉の美しいもの | カエデの一部、カナメモチ、ナンテン、チャンチン、カツ |
|            | ラ、ブナなど                     |
| 黄色の美しいもの   | イチョウ、イタヤカエデ、カツラ、ザクロ、ケヤキ、マン |
|            | サク、ヤマブキ、ニレ、フジなど            |

### (6) 実の美しい樹木

実の観賞は、一般に赤紅色系のものが対象となりますが、この他黄色系、 黒色系、青紫色系のものにも美しいものがあります。

| 区  | 分   | 樹 種 名                           |
|----|-----|---------------------------------|
| 赤  | 色   | アオキ、ウメモドキ、ガマズミ、ザクロ、マンリョウ、ナンテン、ニ |
|    |     | シキギ、ベニシタン、ナナカマド、ヤマボウシ、ハナミズキなど   |
| 黄  | 色   | イチョウ、ウメ、カリン、ユズ、ミカン、ビワ           |
| 青华 | だ 色 | ムラサキシキブ、ブドウ                     |
| 黒  | 色   | キヅタ、ヤツデ                         |

#### (7) 花期の長い花木

花木には10日以内で花の咲き終わるものや、1ヵ月も2ヵ月も咲き続けて、 目を楽しませてくれるものがあります。この場合、花期は1個の花の寿命で はなく、1個の花は1~2日で落花しても、つぎつぎと咲いて長く花が見ら れる期間をいいます。

|   |   | 区 |   | 分  |   |   | 樹種                          |
|---|---|---|---|----|---|---|-----------------------------|
| 花 | 期 | の | 長 | 63 | 花 | 木 | サツキ、シモツゲ、キョウチクトウ、アベリア、ムクゲ、  |
| _ |   |   | _ |    |   |   | サルスベリ、サザンカ、ミヤギノハギ、ノウゼンカズラなど |

કેલ દારેલ કેલ દારેલ દારેલ

## Q & A

Q、3~4日家をあけたいのですが、鉢花や、観賞植物がしおれないか心 配です。よい方法を教えて下さい。

A、水をたっぷり与えておけば、1~2日は問題はないが、それ以上長く なるときは少し工夫が必要です。

簡単で効果的なのは「腰水法」です。鉢受皿に少し多目の水を入れ鉢底を 浸しておく方法です。長くなれば根が呼吸困難になり根ぐされを起こします。 根ぐされをなくする場合は、いったん十分水を与え、日の当たらない場所 へ移動させ、水ごけや新聞に十分水を浸して厚く覆ってもよい。

もし、小型の鉢でしたら、ダンボール箱の中へいくつも並べて、水ごけを 湿して入れておけば空中湿度も高く、1週間ぐらいは大丈夫でしょう。

山野草か、小盆栽は、水盤に細かな砂を敷き、水を十分ふくませてその土 に並べるのもよい方法です。なおその上へ日覆いをしてやれば2~3日はも ちます。

9

## 3 〈 樹木のいろいろなふやし方

## (1) 実生によるふやし方

- 利点 技術的には簡単で、誰でも大量に増殖することができる。
- 欠点 母樹と全く同じ形質を備えたものを増やすことはできない。開花結 実に年月がかかる。

#### ア、種子の取り方

種子は完熟してから採種するのが望ましいが、マツ、スギ、カエデなどは 黄熟したら採種します。

ウメモドキ、ナンテン、ベニシタンなどの果肉のあるものは早目に取り、 小鳥に食べられないようにします。

#### イ、種子の調整

スギ、マツ、カエデなどの球果実は、陰干しして、不純物を除いて選別します。

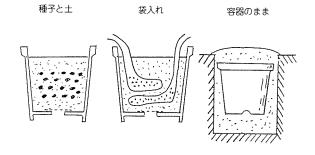
ウメモドキ、ナンテンなどの果実は、果肉を取り除き、水洗いします。 イチョウ、クルミなどは、土中に埋め、果肉を腐敗させて水洗いします。 (カブレを起こすので素手で触れない。)

## ウ、種子の貯蔵

種子の種類によって貯蔵の仕方が異なります。

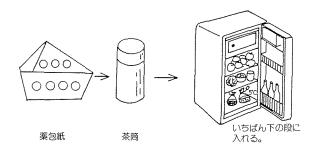
## グ、湿性貯蔵

果肉に覆われている樹種は、極端に乾燥を嫌うため、果肉を取り水洗い後、播種時まで湿気のある清潔な川砂に埋めておきます。



#### イ)、乾燥貯蔵

球果などは、薬包紙で包み、茶筒に入れて冷蔵庫へ入れて保存します。



#### 工、播種方法 (時期別)

### ⑦、取りまき

採種後、ただちに播種する方法で、とくに乾燥を嫌うものや、ヒイラギナンテンのように梅雨期に成熟し、年内に発芽するものについて行う。

### (イ)、春まき

一般に彼岸すぎに播種を行います。湿性貯蔵したものは、発芽を始め たものもあり、注意が大切です。

#### (ウ)、秋まき

秋に採種し、乾燥すると発芽しないコナラ、ミスナラなどをまきます。

#### オ、播種の什方

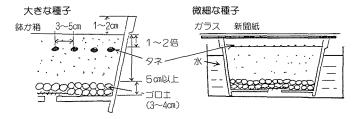
#### グ、畑へまく場合

精選された種子は、大量の場合や大粒のものは、畑に畦作りして播種 します。

通常は、畦巾は 1 m、畦高  $10 \sim 20 \text{ cm}$ 、よく耕転する。  $\overline{a}$  では、種子の厚さの  $1 \sim 1.5$  倍くらいとし、よく鎮圧する。 その後は乾燥を防ぐため敷ワラをします。

#### (イ)、容器へタネをまく場合

大きな種子は、鉢か箱に入れ土中に埋めますが、細かい種子の場合は、 覆土しないで、鉢や箱のまま水槽の中へ入れ下部の穴から吸水し所定の 場所へ置きます。



#### (ウ)、用土

大きな種子は、川砂または赤玉土の単用でよく、細かい種子は、バーミュキュライト、ピートモス、水苔を細かく切ったものを利用します。

#### 工、播種後の管理

春まきの場合は、暖かい所に置きます。夏の取りまきの場合は、日陰 におき、秋まきの場合は、冬期間凍らせないようにします。

いづれの場合も乾かさないことが大切です。

樹種によって発芽日数が異なりますので、注意深く見守り、少しでも 発芽を見かけたら敷ワラを取り除き、不良苗を間引きし、播種後1ヶ月 くらいから薄い液肥を散布します。移植は翌年の春に行います。

#### (2) 挿し木によるふやし方

挿し木は、植物体の一部を切取って、土中に挿して新しい個体を作る方法で、 実生とともに多く使われます。

•利点 母樹と同一のものを一時に多量再生させることができます。生長が 早く、誰でも簡単にできます。

実生より着花結実が早い。

欠点 実生に比べて根が一般に浅く一方に片よる場合が多い。 一般に短命であり、挿し木のできない樹種もあります。

#### ア、挿し木の時期

春挿し 3月下旬~4月中旬(落葉樹、針葉樹)

梅雨挿し 6月中旬~7月中旬(常緑樹)

土用挿し 7月中旬~8月中旬(常緑樹で梅雨にまだ組織が充実していない樹種)

秋挿し 9月中旬~11月上旬(落葉樹)

## イ、場所と用土

挿し木を行う場所は、半日陰で風があたらない排水のよい場所がよい。適 当な場所がなく、本数の少ないときは箱や鉢にさして半日陰におきます。

用土は、水はけがよく、空気の流通のよいもので、保水力があり清潔なものを用います。

種類は赤玉土、川砂、バーミュキュライト、ピートモスなどがよい。畑土 は土壌中に腐敗菌が多いので避けたほうがよい。

## ウ、挿し穂の取り方

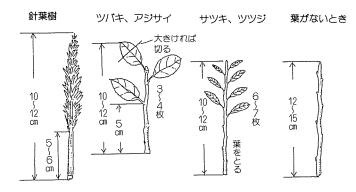
若い勢いのある樹で、よく充実した、健全な枝を用います。一般には、春 挿しは昨年枝の一部を使い、梅雨挿しは、今年枝を用います。

ツツジ類は、昨年枝の一部をつけたほうがよい。

## エ、挿し穂の長さ、葉の枚数

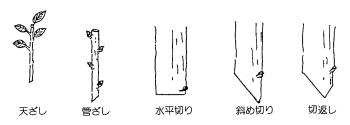
樹種や発根の難易によって異なります。葉の枚数は葉の大きいものは少な

く残し、葉の小さいものは多く残します。



## オ、挿し穂の切り方

挿し穂の切断は、発根を高め、促進するためいろいろな方法が用いられています。現在は、木本植物では切返し、斜め切りが多く用いられ、挿し穂の軟らかい草本植物は、水平切りが多く、天ざし、管ざしは細い枝のものが用いられます。いずれも、よく切れる刃物を使い一気に切るのがコツです。



## カ、挿し穂の処理

挿し穂は、穂作り後、数時間から一昼夜挿し穂の茎部を水に浸漬するのが 常識となっています。

発根阻害物質を除 き、また水分を吸収 してしおれる予防に も効果がありますが、 長くなると逆に発根



率が悪くなる場合が多い。

また、発根の悪いものは科学薬品を使う方法もあります。

## キ、挿し方

立挿し、斜め挿しが一般に行われ、いずれも、床に案内棒で穴をあけ、挿 し穂を1/3程度土中に入れ、両手で軽く押さえて、その後は灌水をします。

#### ク、挿し木後の管理

挿し木後の活着は、なんといってもその後の管理の善しあしにあります。 いつも適度の湿度を保つようにします。西日のあたるところは避け、日中 は日除けをします。夜露があたるようにします。

#### (3) 接ぎ木によるふやし方

接ぎ木は、実生、挿し木の困難な樹木の増殖の場合に行います。同種のなかで生育の弱い種類に、樹勢の強い台木を使って強い木をつくる場合や、病虫害の抵抗性を高めるため、結実を早めるためや花の咲き分けをさせるためなどに行います。

#### ア、台木

台木は、実生、挿し木によって根張りのよいものをつくります。一般には、 太さがエンピッ大から人指し指ほどのものが理想的です。

## イ、接ぎ穂の採取と貯蔵

接ぎ穂は壮令樹の徒長枝か、今年枝の生長のよいもの、病虫害に侵されて いない完熟したものがよい。

接ぎ穂の採取は、通常1~2月の休眠期に採取し、湿り気のある川砂に入れて保存する土中埋蔵法と、厚みのあるビニール袋に入れて冷暗所に貯蔵する密閉法があります(長期間保存できます。)。

### ウ、接ぎ木に必要な用具

- せん定バサミ 切れ味のよいもの。
- ・切りだしナイフ よく切れて、刃の薄いもの。
- •接ぎ木テープ 幅1.2cm、厚さ0.05mmくらい。打ちワラでもよい。
- 接ぎロウ 太い台木の場合、効果が高い。
- ビニール袋 接ぎ木したものにかけ、湿度を高める。芽の伸びをみて 徐々にはずす。

## 工、接ぎ木の時期

春先に行う休眠枝の接ぎ木は、枝接ぎのなかでも最も多く使われます。春 先、芽がふくらみ始めたときが適期ですが、植物の種類によって差がありま す。

まず、2月下旬頃に、ウメ、バラ、マツなどで、ナシ、リンゴ、カキなどがこれに次ぎ、4月になればスギ、カンキツ類などを行います。

## オ、切り接ぎ

## の 台木の調整と切りこみ方

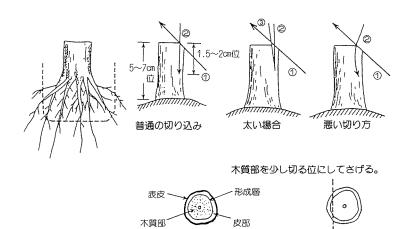
春に行う場合は、台木を掘り上げ根を切りつめます。 ツバキを夏に接ぐ場合は、鉢植えのまま行います。

#### (イ)穂木の調整

よく充実した枝で、先端とつけ根は切り捨てます。穂は2~3芽を残し

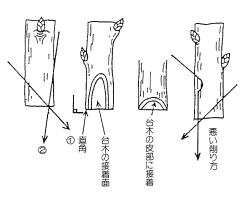
て鋭利なナイフで一気に削ります。

削り面に凸凹をつくらないように削り、台木の切り込みより穂の切り込みを5mmほど長く削るとよい。



## ゆ穂木の挿入

台木と穂木の太さが 同じくらい削って形成層 を合わせる。台木より 穂が細い場合は片方の 形成層だけを合わせま す。台木と穂の先端部 を密着させることが大 切です。

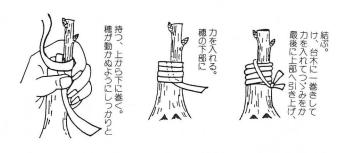




## 口 結 束

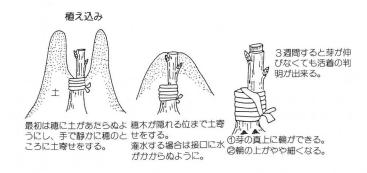
接ぎ木テープ、ラフィヤ、打ちワラなどで結束するが、形成層がはずれ ないように十分注意します。

接ぎ終わったら、切口と削り口に接ぎ口ウを塗り、ビニールの袋をかけ、 葉が1cmくらい伸びたとき、袋の先端を一部切ります。



## オ 接ぎ木後の管理

盛り土をしたあと、さらにビニール袋をかけ、ヨシズをかけておきます。 接ぎ木後、3週間ほどたったら、朝夕日光にあて、徐々に日光にあてる。 時間を長くします。この頃から、台木の芽がよく伸びるのでかき取ります。



## め 割り接ぎ

この接ぎ方は、マツ、果樹類、ツバキ、ボタンなど太いものや、台木が 裂けやすいものに用いられる。

台木の調整は、地上部を5~10cmに切ります(マツは20~30cmくらいが よい。)。

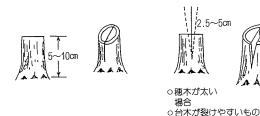
割り接ぎは、幹の中心に1.5~2 cm切り下げます。太い台木、ボタン、シャクヤク台木は、両側からナイフを V 字形に入れ、クサビ状に残ったものははずします。

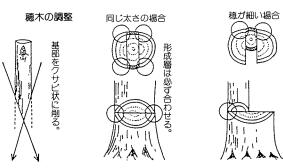
穂木の調整は、芽を2芽以上つけ、なるべく短くして、クサビ状に削ります。

結束、ビニール袋かけは切り接ぎに準じて行います。

## (4) 取り木によるふやし方

取り木は、親から切り離さずに枝や幹の途中から発根させる方法です。





## ア、取り木の時期

- 一般に、春から夏にかけて行います。
- 落葉樹 新梢の伸びが止まり、硬くなった梅雨期がよい。
- 常緑樹 4月上旬の新芽の活動する頃からできます。

### イ、取り木する位置

活力旺盛な親木で、2~3年生の部分を利用します。

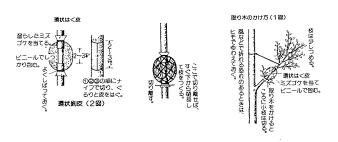
皮をはぐとき、皮層の一部を残しますと発根しないので絶対残さないよう にします。

## ウ、切り離しの時期と位置

発根したものは、9月頃に切植えしますが、その位置は水苔のすぐ下で切り離します。

水苔のついたまま仮植えを行い、翌春、水苔をきれいに取り除いて植えか えます。

切り離すときは、根の量に応じて、葉をせん定することが大切です。



## 4 〈 どこにどんな樹を植えたらよいか

庭づくりや公園、街路の緑化について、いろいろな緑化木が使われています。これらの樹木は、それぞれ樹種特有の個性があります。その個性を十分知って、植栽することが大切です。

## (1) 一般住宅

## ア、植栽場所と樹種

和風、洋風、和洋折衷の庭があります。それぞれにふさわしい植栽を考えましょう。

| 区 分     | 植栽            | 樹種                 |
|---------|---------------|--------------------|
| 和風向き    | 庭の中心に真木をおく。常  | クロマツ、アカマツ、ラカンマキ、モ  |
|         | 緑樹が適する。       | ツコク、キンモクセイ、シラカシ、モ  |
|         |               | チノキ、タイサンボク、コブシ、ウメ  |
|         |               | など                 |
| 洋風向き    | 明るい庭づくりで花木が適  | アメリカハナミズキ、ドウダンツツジ、 |
|         | する。直線的、曲線的に植  | アベリア、キャラボク、イチョウ、カ  |
|         | 栽し刈込んで美しいもの。  | イズカイブキ、コウヤマキなど     |
| 玄関周辺の低木 | 内生垣などで、家の品格を  | キャラボク、イヌツゲ、サツキ、ヒラ  |
| または低生垣  | 表わすための低木を入れる。 | トツツジ、オオムラサキ、クチナシ、  |
|         |               | アベリア、ヤツデ、ツバキ、サザンカ、 |
|         |               | アジサイ、ドウダンツツジ、ハクチョ  |
|         |               | ウゲ、ユキヤナギなど         |
| 車寄せ周辺の樹 | 景観を強調し、家の品位を  | ラカンマキ、クロマツ、イチイ、スイ  |
|         | 出すための樹種の選定。   | リュウヒバ、モチノキ、タイザンボク、 |
|         |               | キンモクセイ、ヒイラギなど      |

## イ、和風庭園の樹木

|   | 区 | 分   | 植栽   | 樹種   |
|---|---|-----|--|--|
| 真 | 木 | (心) | 庭の中に植栽され、前庭を<br>支配するような主木で雄大<br>な樹勢のものがよい。                 | アカマツ、クロマツ、ゴヨウマツ、イチイ、ラカンマキ、スギ、タイザンボク、ウバメガシ、ユズリハ、モチノキ、タラヨウ、キンモクセイ、ハクモクレンなど               |
| 添 |   | (副) | 真木の樹形を補うための樹<br>で、真木と同じもので選ぶ。                              | 上に同じ   |
|   | 対 |     | 真、添に相対させるために<br>全く正反対の感じのものを<br>入れる。真木が針葉樹なら<br>広葉樹を用いる。   | イロハモミジ、ハウチワカエデ、ウメ、<br>ウメモドキ、コブシ、コナラ、アジサ<br>イ、ウツギ、シモツケ、ニシキギ、マ<br>サキ、ドウダンツツジ、サルスベリな<br>ど |
| 前 |   | 付   | 真、添、対が完全でない場合に欠点を補うもの。その<br>ほとんどが潅木(低木)で、<br>常緑、落葉どちらでもよい。 | キャラボク、ヒイラギナンテン、ツバキ、サザンカ、ヒサカキ、ジンチョウゲ、サツキ、ヒラトツツジ、シャクナゲ、クチナシ、ハクチョウゲ、ドウダンツツジなど             |
| 見 | 越 | ,   | 植栽樹木の背景に不満があるときこれを補う植栽。真、添の樹によって異なる。一般に常緑広葉で葉の茂ったもの。       | マツ類、スギ、ヒノキ、サワラ、コウヤマキ、アラカシ、シラカシ、ウバメガシ、カナメモチ、モチノキ、ツバキ、サザンカ、ボタン、キンモクセイ、サンゴジュ、サクラ、ヤマモミジなど  |

## ウ、洋風庭園の樹木

洋風の庭は面積が大きければ幾何学的な庭が美しいか一般家庭の庭では芝生をベースにすることが多い。

樹種としては

| 区 | 分 | 樹種                             |
|---|---|--------------------------------|
| 高 | 木 | シュロ、ソテツ、ケヤキ、ユリノキ、プラタナス、エンジュ、タブ |
|   |   | ノキなど                           |
| 中 | 木 | カイズカイブキ、カシ類、キンモクセイ、サンゴジュ、ゲッケイジ |
|   |   | ュ、サザンカなど                       |
| 低 | 木 | ツツジ、イヌツゲ、クチナシ、ハクチョウゲ、ドウダンツツジ、ユ |
|   |   | キヤナギ、アベリア、ジンチョウゲなど             |

#### 工、和洋折衷の庭の樹木

和風庭に一般に使う樹種と洋風に使う樹木を合せて庭づくりをしたもので、 最近は花壇などを加えた庭づくりが多い。

### (2) 都市公園

都市公園の緑化の重要性

経済の高度成長がもたらした、人口、産業の集積化により、都市及び都市 近郊は自然破壊、大気汚染、水質汚濁、騒音などにより生活環境が悪化し、 そのため緑の必要性が高まっている。公共団体は児童公園、近隣公園、普通 公園、運動公園などの多様な公園を造成し管理している。

#### 公園樹木の条件

- 市街地の土地的、気候的環境条件に強いもの。
- 樹形が美しく、移植の容易なもの。
- 病虫害に強く、植栽後の保護管理の容易なもの。
- 大きな緑陰を与えるもの。
- 樹体に有刺、有毒性の成分あるいは悪臭を発生しないもの。
- 美しい花を咲かせる花木類。

## Q & A

Q、開花中のサツキを室内で楽しみたいのですが、水やりの仕方を教えて 下さい。

A、サツキの花の咲くころは、梅雨時期で雨の日が多いので、せっかく咲いた花も雨にあった後、強い直射日光を受けると、菌核病にかかり花が長もちしません。室内の観賞もよい方法だと思います。ただし、あまり暗い室内におくと生育上よくありません。日当たりのよい縁側などに置きましょう。

開花時は、とくに水分を多く求めますので、毎朝、外に出してたっぷりと 水を与えましょう。

水は鉢土に静かに与え、花にかからないようにします。しかし、葉にして みれば湿度が必要ですから、夜間だけ軒下に出しておき、夜露にあわせた方 が樹のためになります。

室内におくのも一週間くらいです。あまり長く楽しもうとすると樹が衰弱し、芽吹きが悪くなったり、枝枯れを起こすことがあります。

20

## 公園の種類と植栽樹種

| 公園の種類     | 植栽            | 樹種                  |
|-----------|---------------|---------------------|
| 児 童 公 園   | 周囲の植込みと保護者の休  | (高) シラカシ、シイ、ケヤキ、トウ  |
|           | 息の緑陰樹の植込み。常緑  | カエデ、イチョウ、プラタナス、アオ   |
|           | 樹7、落葉樹3で有刺、有  | ギリ、(中) サンゴジュ、ユズリハ、  |
|           | 毒な樹種は避ける。     | カイズカイブキ、(低)サツキ、ヒラ   |
|           |               | トツツジ、イヌツゲ、クチナシ、アベ   |
| (0.2ha以上) |               | リア、ハクチョウゲ、ユキヤナギなど   |
| 近隣公園      | 老若を問わず、一般の人の  | (高)イチョウ、メタセコイヤ、シラ   |
|           | 保健と憩いの場としての植  | カシ、モチノキ、タイサンボク、プラ   |
|           | 込み。緑陰樹、風致園など。 | タナス、ケヤキ、ユリノキ、カツラ、   |
|           |               | シラカバ、(中) カイズカイブキ、キ  |
|           |               | ンモクセイ、ツバキ、サザンカ、カナ   |
|           |               | メモチ、ヤマモミジ、ナナカマド、(低) |
|           |               | サツキ、ヒラトツツジ、オオムラサキ、  |
| (5.0ha以上) |               | アオキ、アジサイ、ヤマブキなど     |
| 普 通 公 園   | 都市のなかの公園で緑陰樹、 | 近隣公園に準ずるが、園藝種より、自   |
|           | 並木、林間歩道、風致園、  | 然樹の植栽を重点的に行う。       |
| (30ha以上)  | 樹木園など。        |                     |
| 運動公園      | 各種競技場の周辺の防風林、 | (高)シラカシ、アラカシ、タブノキ、  |
|           | 防風垣、施設の緑化。でき  | ケヤキ、プラタナス、ユリノキ、エン   |
|           | るだけ常緑の広葉樹。    | ジュ、(中) カイズカイブキ、サンゴ  |
| 1         |               | ジュ、ツバキ、キンモクセイ、ネズミ   |
|           |               | モチ、(低)サツキ、ヒラトツツジ、   |
|           |               | オオムラサキ、アオキ、ヤツデなど    |

## (3) 街路樹の整備

都市及びその周辺の景観の整備、環境の美化をもたらし、住民の憧れを充足するとともに防火、防煙、防塵、防暑、防風など、住民の生活、健康の保全のため街路の植栽は重要です。

#### ア. 高 木

道路条件、地域条件を考慮すると、表のとおりとなる。

## 代表的な樹種

| 地 | 域 |   | 広 幅 員 狭 幅 員                       |
|---|---|---|-----------------------------------|
| 市 | 街 | 地 | アキニレ、イチョウ、クロガネモ アメリカハナミズキ、アラカシ、   |
|   |   | . | チ、ケヤキ、シンジュ、スズカケ エンジュ、カツラ、サトザクラ、   |
|   |   |   | ノキ、タイワンフウ、タブノキ、   サルスベリ、シラカシ、タイサン |
|   |   |   | トウカエデ、トチノキ、モミジバ ボク、ネグンドカエデ、ハクウン   |
|   |   | - | フウ、ユリノキなど ボクなど                    |
| 郊 |   | 外 | アオギリ、アカマツ、アキニレ、 イロハモミジ、エゴノキ、オオシ   |
|   |   | 1 | エノキ、クロマツ、ケヤキ、シダ マザクラ、トネリコ、ナツツバキ   |
|   |   | 1 | vヤナギ、スズカケノキ、ニセア<br>ナナカマド、ヤマボウシなど  |
|   |   | 7 | カシア、メタセコイアなど                      |

## イ. 中 木

樹 種 主として常緑樹を使用する。

|   | 樹 | 種 | ウバメガシ、カイズカイブキ、キンモクセイ、サザンカ、サンゴジュ、 |
|---|---|---|----------------------------------|
| I |   |   | トウネズミモチ、ネズミモチ、ヒイラギモクセイ、モッコク、ヤブツ  |
|   |   |   | バキなど                             |

## ウ. 低 木

樹 種 主として常緑低木を使用する。

| 樹 | 種 | アベリア、オオムラサキ、カンツバキ、キンシバイ、コデマリ、サツ |
|---|---|---------------------------------|
|   |   | キ、シモツケ、ジンチョウゲ、ドウダンツツジ、ハクチョウゲ、マメ |
|   |   | ッゲ、ヤマツツジ、ハギなど                   |

## (4) 工場とその周辺の緑化

工場とその周辺へ造園施設や、緑化木の植栽を行うことにより、地域の環境改善と美化に寄与するとともに、工場に働く人々の憩いと団らんの場を提供する。

| 場所      | 植栽              | 樹種               |
|---------|-----------------|------------------|
| 工場内の緑化  | 四季折々の季節の変化を感じさせ | アジサイ、サザンカ、サツキ、ヒ  |
|         | る花木を中心とした植栽。    | ラトツツジ、ドウダンツツジ、フ  |
|         |                 | ジ、バラ、ボケ、ライラック、エ  |
|         |                 | ニシダ、ムクゲ、アベリア、シモ  |
|         |                 | ツケなど             |
| 工場内の道路  | 資材の搬入、搬出や従業員の通行 | (高)プラタナス、ユリノキ、イ  |
| 沿いの緑化   | の支障のない植栽。排煙、媒塵な | チョウ、トウカエデ、アオギリ、  |
|         | どの公害に強い樹。       | オオシマザクラ、キョウチクトウ、 |
|         |                 | シダレヤナギ、トネリコ、(低)  |
|         |                 | サザンカ、ツバキ、シャリンバイ、 |
|         |                 | イヌツゲ、アオキなど       |
| 工場周辺の緑化 |                 | 工場内の道路沿いの場合と同様の  |
|         |                 | 植栽でよい。           |

## (5) 学校の緑化

地域の中心的施設である学校の緑化は、防風、防塵、防音など学校環境や、 さらに地域の環境の向上を図るとともに、児童・生徒に教材や憩いの場を提供 するなど情操教育にも重要です。

| 場所    | 植栽              | 樹          | 種               |
|-------|-----------------|------------|-----------------|
| 学校の緑化 | 学校本館を引立たせるため、明る | (車寄せ) トウシュ | 1口、アカマツ、        |
|       | い芝を中心にするのが一般的。正 | クロマツ、ラカンコ  | マキ、カイズカ         |
| 1     | 面(車寄せ)は学校の象徴的な場 | イブキなど      |                 |
|       | 所として、できるだけ格調の高い | (校舎周辺)ポプラ  | <b>ラ、プラタナス、</b> |
|       | 植栽に配慮する。本館、校長室、 | ユリノキ、コブシ、  | カエデ類、ア          |
|       | 会議室などの前は、針葉樹または | メリカハナミズキ、  | トチノキ、ケ          |
|       | 常緑の広葉樹がよい。教室前は落 | ヤキ、カイヅカイフ  | ブキ、コウヤマ         |
|       | 葉の広葉樹が適している。    | キ、モッコク、ゲッ  | ケイジュ、サ          |
|       |                 | ザンカ、ツバキ、サ  | トツキ、クチナ         |
|       |                 | シ、ヒラトツツジ、  | ジンチョウゲ、         |
| ,     |                 | ハクチョウゲ、ユニ  | テヤナギなど          |
|       | 4               | (生垣) キャラボク | 7、イヌツゲ、         |
|       |                 | サザンカ、ドウダン  | /ツツジ、カナ         |
| 1     |                 | メモチ、マサキ、サ  | トンゴジュ、シ         |
|       |                 | ラカシなど      |                 |

#### (6) 記念樹

企業、個人などを問わず、社会生活または個人生活の一つの節目に樹を植える習わしがあるが、その植樹の目的から永く残るように樹を選びます。

|   | 場所 |   | 植栽              | 樹        | 種       |
|---|----|---|-----------------|----------|---------|
| 記 | 念  | 樹 | 大木になるもの。発育が盛んなも | (針)イチョウ、 | コウヤマキ、ヒ |
|   |    |   | の。病虫害の少ないもの。管理が | マラヤシーダ、ス | ギ、クロマツ、 |
|   |    |   | 容易なもの。美しいもの。    | (広)キンモクセ | イ、ゲッケイジ |
|   |    |   |                 | ュ、タイサンボク | 、ウメ、エンジ |
|   |    |   |                 | ュ、カツラ、ケヤ | キ、サクラ類、 |
|   |    |   |                 | ハクモクレン、ハ | ナミズキなど  |

### (7) 防火樹

火災時に、住宅などの類焼を防ぐのに、樹木の植栽は大きな効果を発揮します。

一般に、針葉樹より常緑広葉樹が効果が高い。

| 場所 |   | - | 植栽              | 樹種                |    |
|----|---|---|-----------------|-------------------|----|
| 防  | 火 | 樹 | 火の粉を防ぐのを除き、輻射熱を | (針) イチョウ、イヌマキ、コロ  | ウ  |
|    |   |   | 防ぐ場合をあげる。樹体が直接火 | ヤマキ、ラカンマキ、(広) アオコ | キ、 |
|    |   |   | 焰に接しなければ発火しないよう | カシ類、キョウチクトウ、サカコ   | キ、 |
|    |   |   | な樹種で葉が密生し、葉が多肉で | サザンカ、サンゴジュ、シイ、ご   | ッ  |
|    |   |   | 水分が多いもの、常緑で葉の細い | バキ、モクセイ、シイノキ、ヤン   | ッ  |
|    |   |   | もの。             | デ、ユズリハなど          |    |

## (8) 日陰棚用樹

つる性植物をはわせて日陰用棚をつくり、庭に憩いと潤いのある場所を創り 出す。樹種は果実のなるものがよい。

| 場所    | 植栽               | 樹        | 種        |
|-------|------------------|----------|----------|
| 日陰棚用樹 | 夏に枝葉が密生し、十分に緑陰を  | フジ、ブドウ、ア | ケビ、ツルバラ、 |
|       | 与え、できれば花、果実のつくも  | ノウゼンカズラ、 | ヒョウタン、ヘ  |
|       | のが望ましい。冬は落葉するもの。 | チマなど     |          |

## (9) 緑陰樹

道端や人の集まる場所に植栽された樹は、人々にやすらぎや潤いを与え、とくに夏は日陰をつくり休息場所となります。

|   | 場所 |   | 植栽              | 樹        | 種        |
|---|----|---|-----------------|----------|----------|
| 緑 | 陰  | 樹 | 夏は涼しい陰を、冬は暖かい日光 | イチョウ、アオキ | デリ、フウ、エン |
|   |    |   | を妨げない樹種がよい。また大木 | ジュ、カエデ、カ | 1ツラ、ケヤキ、 |
|   |    |   | になり、生育が盛んで、多少根元 | サクラ類、シダレ | ·ヤナギ、プラタ |
|   |    |   | を踏まれてもいいもの。     | ナス、トウカエテ | ·、トチノキ、ホ |
|   |    |   |                 | オノキ、ニセアカ | 1シヤなど    |

## (10) 神社に多く使われる樹

| 場所     | 植栽              | 樹種                |
|--------|-----------------|-------------------|
| 神社に多く使 | 神社は雰囲気が静寂、荘厳のなか | (針)スギ、イチイ、アカマツ、   |
| われる樹   | で神々しさがあり、明るさよりむ | クロマツ、イチョウ、コウヤマキ、  |
|        | しろ重厚な暗さ、神秘なものがよ | ゴヨウマツ、カヤ、モミ、ラカン   |
|        | い。本殿周辺は常緑樹とする。落 | マキ、(広) アカガシ、イヌツゲ、 |
|        | 葉樹や花木は避ける。      | ヒサカキ、サカキ、サザンカ、シ   |
|        |                 | イ、シヤリンバイ、シラカシ、ソ   |
|        |                 | ヨゴ、モッコク、ウメ、サクラ、   |
|        |                 | カエデ、ケヤキ、フジなど      |

### (11) 有毒植物

| 種類      | 部 分  | 成 分         |
|---------|------|-------------|
| キョウチクトウ | 葉    | _           |
| シキミ     | 実    | アニザチン       |
| コブシ     | 果実   | エゴサポニン      |
| ドクウツギ   | 実、種子 | コリアミルチン、ツチン |
| レンゲツツジ  | 茎、葉  | コリアミルチン     |
| アオキ     | 実    | アウクビン       |

### (12) 小鳥食餌樹

小鳥は審を求めるもの(メジロ、ヒヨドリ)、花粉を求めるもの(メジロ)、 実を求めるもの(殆どの小鳥)などがある。

|   | 場 | į<br>į | Ē | <b></b> | 樹種                           |
|---|---|--------|---|---------|------------------------------|
| 小 | 鳥 | の      | 好 | t       | イヌツゲ、グミ、サンゴジュ、ソヨゴ、ナンテン、ヒサカキ、 |
|   |   |        |   |         | ウメモドキ、エゴノキ、ガマガミ、エノキ、コナラ、コブシ、 |
|   |   |        |   |         | サクラ、ナナカマド、ミズキ、ノブドウ、ムラサキシキブ、  |
|   |   |        |   |         | ノイバラなど                       |

યુ <sup>મુ</sup>ક્ષાને મામે જેવાને કેવાને કેવાને કેવાને કેવાને કેવાને કેવાને કેવાને કેવાને કામને કામને કામને કામને તામને વામને

Q、ハイビスカスの鉢を買ったのですが、どういう点に気をつけて管理す

A、この樹は、熱帯性の植物で、赤、黄、白など鮮やかな色の花をつけま

買ってきたら日当たりのよい場所におきます。水やりは鉢土が乾いたら鉢

4~9月まで枝が伸びますから、株の弱らないうちに月1回油粕を表面に

鉢植えのハイビスカスは、芽がでる前に枝を整理しますと、小ぶりで形の

26

## 5 🤇 これだけは知っておきたい 🖔

## (1) 植え方

#### ア、植え穴の準備

植え穴は、前もって植える木の種類や大きさ、場所が分かっていれば、5~7日前頃に準備しておきたいものです。植え場所を除草し、根鉢の大きさより深く掘り返し、さらに2~3倍の広さによく耕して通気性や保水性をよくしておきます。とくに通気、排水の悪い粘土質の場所に、植え穴の分だけ小さく掘りますと、降雨量の多いときに穴に水が溜まることになります。湿気を嫌う花木類などは根ぐされの原因になりますので、このような場所は、周囲を広く耕し、浅めに広く盛り土状に植えて排水をよくするようにします。

## ★根鉢の大きさと 植え穴の大きさ だいたい a×1.5~2倍 ぐらいがよい。 ・ はえ穴の底を中高にしておくとよ い。木の向きを変えるのにぐあい

## ・植え穴の大きさ

植え穴の大きさは、植え方の良否と同様に、その後の生長に大きく影響します。植え穴は直径、深さともに、根鉢または根張りの約1.5倍ぐらいの余裕をもった大きさに掘ります。また、木の種類によって浅根性のもの、深根性のものがあります。浅根性のものは浅く広く掘り、深根性のものは深めに掘ります。

## ・表土と心土を分けておく

植え穴を掘るときに注意したいこ とは、表土には肥料分を多く含んだ

肥えた土を用います。深くなるにつれて肥料分が少なくなるのが普通です。 植え付け時にややもすると、表土が穴の底に埋め戻され、逆に心土が、新根 が伸びようとする周囲に戻されることになりがちです。そこで掘るときは表

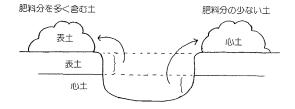
土と心土を植え穴周 囲に区別しておくこ とが大切です。また、 生育の障害となるが れきなども取り除き ます。

がよい。

## イ、元肥の準備

一般に庭の土は山

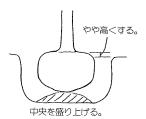
#### ・表土と心土を分けておく



砂を入れることが多く有機質が少ないので、植え穴には肥料を入れて立派に育つようにします。元肥として、堆肥、腐葉土、油粕、骨粉などの有機質肥料を心土に混ぜて埋め戻します。2m前後の苗木ではバケツ2杯程度の堆肥を混ぜたいものです。

#### ウ、苗木の根ごしらえ

植え付けする前には、根ごしらえといって、 根鉢の外に出て枯れている根や傷んだ根先を切り戻したり、切り口の古い根も切り直すことに よって根の腐りを防ぎ、たくさんの新根を早く 発生させることができます。また店先で根が乾 いていたものは、いったん水の中に30分程度浸 してから植えます。



鉢植えのものを植えるときは、鉢まわりの細根をほぐし、少し切りつめます。また、庭の土と全く違う用土 (鹿沼土やピートモス) で育てられていた株は、その用土をていねいに落として植えると生育がよくなります。

#### エ、植え込み

植え込みの深さは、元の場所にあった状態と同じように植えることが大切です。浅すぎたり、深すぎたりしないようにします。根鉢の大きさに応じて植え穴の中央に盛り上げるように土を入れます。

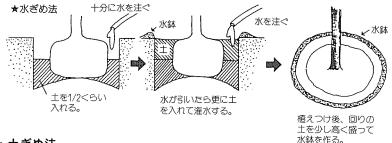
植え付け当時は浅く植えたつもりでも、時が経つにつれて植え穴が沈み、逆に深植えの状態になります。"深植えが一番悪い"ため、元の地面より少し高く盛り土状になるようにします。

## オ、水ぎめ法と土ぎめ法

植え込み方には、水ぎめ法と土ぎめ法の二つの方法があります。

## 水ぎめ法

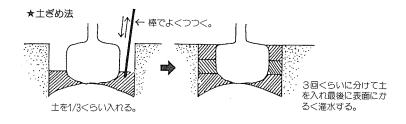
植え穴の中に根鉢を入れ終わったら、根巻きのワラなどを根鉢をくずさないようにていねいに取り除きます。根鉢の周囲に穴の深さの1/2~2/3程度土を入れその上に水を十分注ぎ、水が吸わないうちに、直径3cmぐらいの棒で根鉢のまわりをよく突きます。よく突かないと底に水がたまり根から腐ったりします。また、この時根鉢が割れない程度に幹を少しゆり動かし、どろどろの土がむらなく根のまわりに行きわたるようにします。泥水が吸収されたらまた細土を入れ、水を注ぎ、棒で突く作業をくり返して地表まで埋め、根鉢の上をさけて軽く踏みます。このように水を使って植える方法を「水ぎめ法」と呼んでいます。



## 土ぎめ法

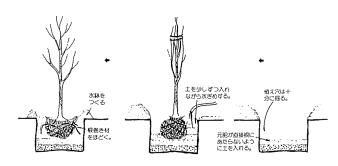
土ぎめ法は水を注がず、細土を棒で突きながら2~3回に分けて埋め戻す 方法で、最後まで水を使わないのが「土ぎめ法」です。一名「からぎめ」と も呼ばれています。この方法は水ぎめで植えると葉が落ちてしまうナンテン や、水を嫌うマツ類、ジンチョウゲなどに行います。

なお、ツツジ類のように根が特に細い種類に対しては、根に付いている土 をよく落としてから植えた方が生育がよくなります。



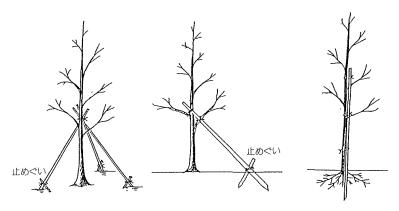
## 力、水鉢

いずれの方法で植えても、最後に根鉢の外周に沿って適当な幅で浅い溝を掘るか、あるいは木の根元を平らにしながら根鉢の外周に沿って円形に土を盛り上げて、十分に潅水をします。このように溝をつくることを水鉢を切るといい、雨水や潅水が集まり、浸透しやすく根の吸水を助けます。この水鉢は活着するまでの1年間はつくっておきます。



#### キ、 支柱

植栽された木が強風などでゆり動かされたり、倒れたりしないように支柱を取り付けます。植え付け当時は、ゆれ動いて根と土が離れたり、新しい根が切れたりしますので支柱で固定してやります。苗木のときは根元にしきわらをして保護をしてやります。また、支柱と幹との間に傷がつかないように割り縄をするか、杉皮をはさんで結ぶようにします。



## (2) 整枝、せん定

### ア、整枝、せん定の目的

庭木は実用または観賞に供するために庭に植えられるもので、放任すると茂りすぎて、樹形が乱れたり、病虫害にかかりやすくなったりしますので、人為的整枝・せん定が必要となります。整枝・せん定は、主として枝を切り取る作業で、次の二つの目的のために行います。

## ・美しい樹形をつくる

庭に植えられた時の木は、まだ完成された美しい樹形になっていないので、 こみすぎた枝など不必要な枝葉を切り取り、今後健全な生育をするようにし ます。

## ・美しい樹形を保つ

ある程度の大きさに生育し、その木の美しさが十分発揮されるようになれば、生長を抑制し、美しい樹形をいつまでも維持するようにします。

## イ、せん定の時期と花芽分化

わが国のように四季のあるところでは、庭木の生育状態が気候に応じて違います。一般に3~4月頃から生長がはじまり、6~7月頃に最も盛んとなり、秋~冬にかけて生長が停止します。ところで、せん定は葉という光合成に必要な大切な栄養器官を切り取ってしまいますので、この生育状態に合わせて行わないと、樹勢を弱め、ついには枯らしてしまうことにもなりかねま

せん。つまり、せん定には行ってよい時期があるわけです。

しかし、厳密には各樹種によって生育が違うので、せん定の適期も少しず つ違うはずですが、実際の作業では、最も共通した適期を選んで行うように しています。

- 針葉樹は、11月から翌年3月頃までの生育が停止している期間内のうち厳 冬期をさけた時期。
- 常緑広葉樹は、春から伸びた芽が固まる梅雨時期と、夏になって生育をは じめた芽(土用芽)が固まる9~10月頃。
- 落葉樹は、落葉した後の11月から翌年3月までの休眠中と、新芽が固まり 葉の生育が一段落した7~8月頃。

以上がそれぞれの適期になりますが、花を主に観賞する花木では、放任しますと花のよく咲かない年があったりします。そこで花木のせん定時期は、花芽の分化時期がいつ頃であるかを知り、栄養生長と生殖生長とのバランスをコントロールすることが大切な条件になります。

#### ウ、基本的にせん定すべき枝

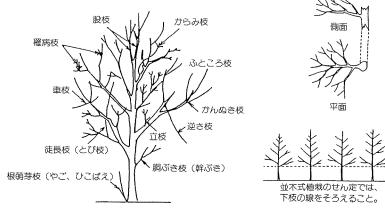
せん定に当たっては、各樹種に共通してせん定しなければならない基本があり、次のような枝は原則的に取り除くものです。

#### せん定すべき枝

- 平行枝…どちらか片方を切り戻します。
- 交差枝…主要な枝と交差している枝は切ります。
- 幹ぶき枝・ひこばえ…放任すると幹先が弱るので元から切ります。
- ・逆枝…腹切り枝ともいい、マツ、ウメなどを除いて普通は切ります。

#### 理想的な枝の配置

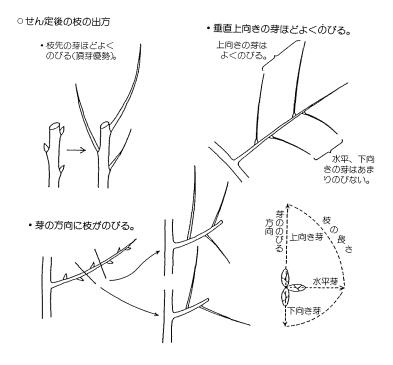
## 除去する必要のある枝



- ・車枝…数を少なくしてすっきりさせます。
- かんぬき枝…樹種によって一方を切ることもあります。
- さし枝…目の高さより正面に長く突き出した枝をいい、切り戻して方向を変えます。
- 枯れ枝…ウメ、ウメモドキなどと風情のある木はほどほどに残します。
- 立ち枝・徒長枝…不用なときは元から切り、必要なときは切り戻します。
- ・下垂枝…切ります。
- その他…枯れ枝、病気の枝、折れた枝は切ります。

## エ、せん定とその後の枝の出方

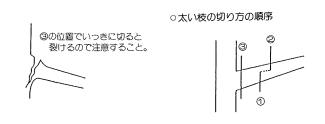
せん定するということは、せん定直後の樹形、枝ぶり、花つきを決定すると同時に、その後の萌芽として生じる新しい枝の出方、方向、長さ、太さ、つまり樹形、枝ぶり、花つきにも強い影響があります。このように木のもっている基本的性質を理解して、いつも現在と将来の枝の姿を同時に考えてせん定しなければなりません。



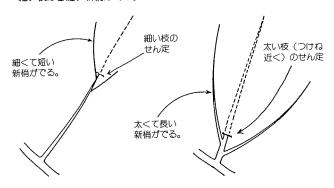
#### オ、強いせん定と弱いせん定

強いせん定の場合には、つぎのような点を考慮しなければなりません。

- 必ず反発して勢いのよい枝が出るので(樹勢の回復につながる。)、ヤナギ、カエデなどのように柔らかい感じの樹形を望むものはできるだけ避けます。
- 広葉樹類は、時期を誤らなければ、1枚の葉も残さずにせん定しても不定 芽が出て回復しますが、針葉樹類は、不定芽が大変出にくいので、必ず各 枝に葉を残すようにしなければなりません。



細い枝から細い新梢がでる。

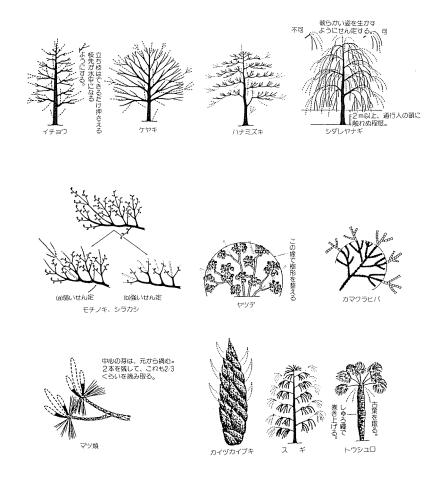


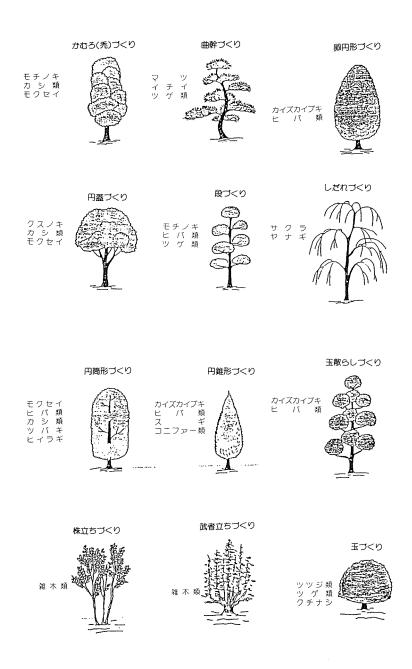
### カ、主な樹木のせん定例

花芽のつくられる時期を「花芽分化期」といい、年によってさほど変化するものではありません。主として早春から初夏にかけて開花する花木は前年の夏に花芽がつくられ、また、夏から秋にかけて開花する花木は春から伸びた新枝に花芽がつくられます。花木のせん定は、花芽が、いつ、どのような枝に、どの位置につくられるかという着花習性を知っていないと、せん定の時期や方法を誤り、花芽のついた枝を切ってしまったりしますので注意が必要です。

#### キ、基本樹形例

- 前年枝の先端に花芽がつき、開花し、先端に花をつけて、開花直後にせん 定します (アジサイ、ハコネウツギなど)。
- 今年の新枝に花芽をつけ、年内のうちに開花するものは、秋から翌春の萌芽前までにせん定します(サルスベリ、ムクゲ、キンモクセイ、キョウチクトウ、ナツツバキ、アベリア、ハギなど)。
- 今年の新枝の先端が花芽になり、翌年の春に開花するものは、開花直後に せん定します(ツツジ類、モクレン、コブシ、ハナミズキなど)。
- 今年の新枝の先端からつけ根近くまでの葉腋に多くの花芽をつけ、翌年その位置で開花するものは、開花直後に長い枝を選んで切り戻すようにせん 定します (ウメ、ハナモモ、レンギョウなど)。





## ク、花芽の分化

花は、咲く時期がくれば必ず咲くものではなく、開花以前の花芽があることが必要です。花芽の分化には日照時間の長短や気温が関係しています。樹種によって異なるので、熟知して整枝、せん定をします。

主な樹種については、下記の表のとおりです。

## 主要花木の花芽分化期と着花習性

| 種類      | 花芽分化期   | 着花習性          | 開花期      |
|---------|---------|---------------|----------|
| ハクチョウゲ  | 3月下     | 新梢頂芽、短い側枝の頂芽  | 同年5~6月   |
| ザクロ     | 4月中     | 新梢の側芽の頂芽      | 〃 7~8月   |
| アベリア    | 4月下     | 新梢の頂芽とこれに次ぐ腋芽 | 〃 7~9月   |
| ムクゲ     | "       | 新梢の腋芽         | 〃 7~9月   |
| ハクモクレン  | 5月中     | 新梢の頂芽         | 翌年3~4月   |
| カリン     | 5月下~6月上 | 新梢の腋芽         | 〃 4月     |
| フジ      | 5月下~6月下 | 新梢の腋芽開花枝の基部   | / 4~5月   |
| ヒイラギモチ  | 6月中     | 新梢の中部以下の腋芽    | 〃 4月     |
| ヒュウガミズキ | "       | 新梢の腋芽         | 〃 3~4月   |
| サクラ類    | 6月下~7月下 | 新梢の腋芽花束状短枝    | 〃 4~5月   |
| シャクナゲ   | 6月下~7月下 | 新梢の頂芽とこれに次ぐ腋芽 | 〃 4~5月   |
| サザンカ    | 6月下~8月上 | "             | 同年10~12月 |
| ツツジ類    | 6月下~8月中 | 新梢の頂芽         | 翌年3月~4月  |
| ツバキ     | 6月上~9月上 | ル とこれに次ぐ腋芽    | 〃 3~5月   |
| レンギョウ   | 6月下     | 新梢の腋芽         | 〃 3~4月   |
| ジンチョウゲ  | 7月上     | 新梢の頂芽         | 〃 3~4月   |
| ハナズオウ   | 7月上     | 新梢の腋芽         | 〃 4月     |
| ウメ      | 7月上~8月上 | "             | " "      |
| ボタン     | 7月下     | 開花直下の腋芽       | 〃 4月     |
| カイドウ    | 7月下~9上  | 新梢の腋芽         | 〃 4月     |
| クチナシ    | " "     | 新梢の頂芽         | 〃 5~6月   |
| キンモクセイ  | 8月上     | 新梢の腋芽         | 同年9月~10月 |
| ドウダンツツジ | "       | 新梢の頂芽とこれに次ぐ腋芽 | 翌年3~4月   |
| アセビ     | 8月中     | "             | " "      |
| ボケ      | 9月上     | 2年枝の腋芽        | 〃 2月~3月  |
| ユキヤナギ   | 9月~10上  | 新梢の腋芽         | 〃 3月~4月  |
| アジサイ    | 10月上・中  | 新梢の頂芽とこれに次ぐ腋芽 | 〃 6~7月   |
| コデマリ    | 10月上    | 新梢の短い側枝の頂芽    | 〃 4月~5月  |
| エニシダ    | 10月下    | 新梢の腋芽         | 〃 4月     |

#### (3) 病虫害の発生と防除

冬が過ぎ、日中気温が上昇し、新芽が動きはじめると、越冬中であった病原菌や害虫類が休眠からさめて一斉に活動を開始しますので、これら病害虫の被害を最小限度に食い止めることが大切です。

## ア、樹木の異常を早く発見しよう

日常庭木をみて、「どうもおかしいな」と気づいたら、その樹が病虫害に侵されていると診断してよいと思います。

### 戸症状別の主な病害

|    | 症     |      | 状   |     | 病 名                     |
|----|-------|------|-----|-----|-------------------------|
| 葉の | の変色や  | 斑点の  | できる | 360 | 褐点病、褐斑病、もざいく病、さび病、葉枯病など |
| 落  | 葉     | す る  | Ł   | の   | 葉ふるい病、落葉病など             |
| 葉  | が変    | 形す   | る   | もの  | もち病、うどんこ病、とうそう病、ビロード病など |
| 枝  | や幹か   | が枯れ  | しる  | もの  | 枝枯病、胴枯病など               |
| 枝や | ?幹から様 | 打脂が流 | 出す  | るもの | 樹脂病、樹脂胴枯病、樹脂溝腐病など       |
| 枝  | か幹が   | 変形   | する  | もの  | こぶ病、こうやく病、がんしゅ病、帯化病、てんぐ |
|    |       |      |     |     | す病など                    |
| 根  | の     |      | 病   | 気   | 白紋羽病、紫紋羽病、ならたけ病など       |
| 菌  | 床     | の    | 病   | 気   | 立枯病、根くされ線虫病など           |



ツノロウカイガラムシ



マツノザイセンチュウ



モンシロドクガ



チャドクガ



マイマイガ



ハダニ



すす病

やどりぎ病



こぶ病



マツ葉ふるい病



もち病



赤星病

# (イ)加害部分と主な害虫

|    | 区    |      | ì   |   | 害 虫 名                   |
|----|------|------|-----|---|-------------------------|
| 葉  | を    | 食    | う   | 虫 | ケムシ、イモムシ、アオムシ、イラムシ、ハムシ、 |
|    |      |      |     |   | ミノムシ、コガネムシ、ハバチなど        |
| 葉  | をつ   | ) づ  | る   | 虫 | ハマキガ                    |
| 葉  | から樹  | 液を   | 吸う  | 虫 | アブラムシ、カイガラムシ、グンバイムシ、ハダニ |
| 葉  | を    | 潜    | る   | 虫 | ハモグリガ、ハモグリタマバエ          |
| 葉  | を縮   | ませ   | る   | 虫 | アブラムシ                   |
| 葉  | にコブ  | をつ   | くる  | 虫 | タマバエ、タマバチ、アブラムシ         |
| 新  | 梢やき  | 手に清  | 替 る | 虫 | シンクイムシ、キクイムシ、メムシガ、タマバエ、 |
|    |      |      |     |   | ハムシ                     |
| 新  | 梢や芽  | をか   | じる  | 虫 | コガネムシ、カミキリムシ、ゾウムシ       |
| 新札 | 肖や葉か | ら樹液な | を吸う | 虫 | アブラムシ、カイガラムシ、キジラミ       |

# (対)根、枝、幹などに害を加えるもの

|   |    | 区 |             |   |   | 分  |        |   |   | 害 虫 名                    |
|---|----|---|-------------|---|---|----|--------|---|---|--------------------------|
| 枝 | や  | 卓 | <del></del> | に | 清 | 奘  | Z      | ) | 虫 | キクイムシ、ナガキクイムシ、カミキリムシ、ゾウ  |
|   |    |   |             |   |   |    |        |   |   | ムシ、タマムシ、キバチ、コウモリガ、コスカシバ、 |
|   |    |   |             |   |   |    |        |   |   | カワモグリガ                   |
| 枝 | や斡 | か | ら           | 樹 | 液 | を  | 吸      | う | 虫 | アブラムシ、カイガラムシ             |
| 根 | を  | • | か           |   | じ |    | る      |   | 虫 | コガネムシ、ヨトウムシ              |
| 根 |    | に |             | 潜 |   | 7, | ,<br>S |   | 虫 | キクイムシ、カミキリムシ             |
| 根 | か  | ら | 樹           | 液 | を | Ŋ  | 爻      | う | 虫 | ワタムシ、ネカイガラムシ             |
| 根 | に  | コ | ブ           | を | 2 | <  |        | る | 虫 | ネコブセンチュウ                 |

#### イ、病虫害の防除

防除という言葉には予防と駆除の意味があり、被害をなくすということには 予防も駆除も違いはありませんが、防除の考え方として、二つの言葉の意味を 知っておくことが被害防除に役立ちます。

病虫害が発生したらなんでも薬をかけるというのは誤りで、例えば、伝染源 となる病苗、病株、病葉などの焼却。2種類の植物の間を往復するさび病では、 中間宿主を除去する。また、ケムシなどは地上に落として踏みつぶしたり、卵 塊やマユなどを集めて焼いたり、マツムケムシの越冬幼虫を集めるためのワラ 巻きなどは、薬をつかわない防除方法であります。しかし、病虫害の大発生や 被害の多い樹木には薬剤による防除が必要です。

薬剤には、殺虫剤、殺菌剤、殺そ剤、除草剤、忌避剤、植物成長調整剤など の種類があり、乳剤、液剤、水和剤、粉剤、粒剤、油剤など形態も異なってお りますので、目的にあった使い方が必要です。殺菌剤の多くは予防効果をねら ったもので、治療効果をもつものが少なく、殺虫剤は駆除ということに重点が おかれています。

薬剤の使用にあたっては、容器などに表示してある適用病虫害、濃度、散布 量などの使用基準を守るとともに、人畜に接する場所での使用が多いので普通 物か劇物を用い、魚毒性についてもAかBランクの薬剤を使用することが基本 です。

また、植物に対する薬害は、高温の時の散布、新芽が開く時の散布などによ って発生しますので注意することが必要です。

# Q&A

Q、カキは、豊作年と不作年があるのはなぜか、毎年平均的にならせるコ ツはないか。

A、果樹は、放っておくと隔年結果になります。花木と違って、実を収穫 するまで付けておくと、実より先え養分が届かないため、翌年実をつける養 分を蓄えることかできず、一年休むことになります。カキの実を取るときは 枝から折れというのは、枝をつけておいても翌年実がならないからです。毎 年ならせるには、せん定によって、今年の結果枝と翌年の結果枝に分けて枝 をつくります。枝が切れない場合は摘果します。

# 主な病虫害の特徴と防除法

| 病害名           | 被害の特徴  | 発生期    | 防除法  |
|---------------|--|--------|--|
| うどんこ病         | マサキ、カエデ類、ハナミズキ、サルスベリなどの葉や新梢に白い粉状のカビが発生する。  | 5~10月  | 通風、日当たりを良くする。カラセン水和剤、マンネブダイセンM水和剤、トリフアミン水和剤などを月1~2回散布する。   |
| さ び 病         | 一般に葉の表、裏面あるいは針葉上に黄色かさび色の粉を吹く。また、枝幹にこぶをつくるもの、黒色あるいは飴色のもの、寒天状に膨らむものなどさまざまである。                              | 4月~6月  | 多くのさび病菌は、異なる二つの植物の間を往復して完成する。したがって、どちらかを抜きとる。たとえば、マツとブナ科の樹木、ナシとビャクシンとの間を往復。ダイセン水和剤、石灰硫黄合剤などを散布する。                              |
| す す 病         | モチノキ、クチナシ、カエデ類、<br>サルスベリなどの葉や茎枝が黒<br>色すす状物で覆われる。アブラ<br>ムシやカイガラムシなどの排せ<br>つ物により発生する場合が多い。                 | 7~10月  | 通風、日照を良くする、茎、枝ではブラシなどで菌体をこすり落とす。アブラムシやカイガラムシを防除する。   |
| も ち 病         | ツバキ、サザンカ、ツツジ類の<br>葉、花、若芽全体もしくは一部<br>が膨らんで、その表面が白粉に<br>覆われ、もちが膨らんだ状態に<br>なる。                              | 5 ~10月 | 病業など見つけしだい除去し、<br>埋めるか焼却する。 2 ボルドー、<br>オキシボウルドウ、クリーング<br>ラス水和剤などを散布する。   |
| こうやく病         | ウメ、サクラ、マサキ、モクセ<br>イなどの枝や幹に褐色のビロー<br>ド状の厚いカビの膜ができ、こ<br>うやくを貼ったようになる。                                      | 通年     | 通風、日照りを良くする。カイガラムシの排せつ物に依存して繁殖するので、カイガラムシを駆除する。樹皮に傷を付けないようにワイヤーブラシで菌の系膜をそぎ落とし、跡にトップジンMベーストを塗布する。                               |
| てんぐす病         | サクラに特に被害が多く、マツ類、ツツジ類、キリなど多くの<br>樹種の枝の一部から小枝を叢生<br>し、てんぐす状になる。  | 通年     | 冬期から早春にかけて、被害枝の基部より下の健全部から切り取り、切口にトップジンMベーストを塗布する。被害枝は焼却する。  |
| がんしゅ病と紅粒がんしゅ病 | 枝の基部や穿孔性害虫の食害痕などの傷口から発生し、傷を中心に樹皮が縦長の紡すい形に侵され、患部は年とともに凹み、同様に小さい紅色の顆粒状の菌体を形成し、春から夏には淡桃白色の塊状になる。多くの樹種に発生する。 | 通年     | 枝の場合は患部の下で切り取り、<br>切口にトップジンMベーストを<br>塗布する。この処理は開葉期直<br>前から直後にかけて行う。  |
| 紫紋羽病          | 多くの樹種に発生する。根や地際部の樹皮表面に褐色の糸状かひも状の菌系束か網目状にからみつき、紫褐色に変わるとともにフェルト状になる。                                       | 通年     | 堀取りや移植時に土中の根片を残さぬようにする。発病枯死樹もていねいに堀り取り焼却する。跡地はカーバム、ブラシサイド、ユブトールなどを散布し、土とよく混和する。根の一部が侵されたときは病根を切り取り、切口にトップジンMベーストを塗り、土壌消毒し埋め戻す。 |

| 病害名                             | 被害の特徴   | 発 生 期  | 防除法   |
|---------------------------------|---|--------|---|
| アブラムシ<br>類                      | ほとんどの樹木の葉や新梢に集<br>団で付着し、樹液を吸収する。<br>巻葉、虫こぶの原因にもなる。  | 4月~9月  | 少量であれば布などでつぶす。<br>エストック乳剤、デナポン水和<br>剤50などのほか、スミチオン乳<br>剤、マラソン乳剤などを散布す<br>る。                   |
| カイガラム<br>シ 類                    | ほとんどの樹木につき、主として白色で、体表がロウ状物質や、<br>粉状、ワタ状の物質で覆われている虫で、幹枝、葉に付着している。樹液を吸収し、すす病の原因になりやすい。              | 5月~9月  | 少量であれば、ハブラシ等でかき落とす。発生初期にカルホス乳剤、スプラサイド乳剤40、スミチオン乳剤などを散布する。<br>冬期には機械油乳剤を散布する。                  |
| ケムシ・イ<br>モムシ 類<br>(蝶・蛾の<br>幼 虫) | 葉を食う害虫で、ほとんどの樹木に発生する。長い毛で覆われているもの、毛のないもの、尾角という突起があるものなど、種類が多い。アメリカシロヒトリの幼虫は年2~3回発生する。             | 5月~10月 | 効果のある殺虫剤の種類が多い。<br>なかでもデイプテレックス、ス<br>ミチオン、カルホス、オルトラ<br>ンなどの乳剤、水和剤または粉<br>剤が有効である。             |
| ハダニ類                            | ほとんどの樹木につき、主として赤色のダニが葉から樹液を吸収する。葉色があせる。また1年に数回程度の発生を繰り返す種類が多い。                                    | 4月~10月 | エストック乳剤、ケルセン乳剤、<br>アカール粉剤、DN粉剤などを<br>散布する。低木の場合には、ダ<br>イジストン粒剤、エカチンTD<br>粒剤を土中に混入する方法もあ<br>る。 |
| ハマキムシ<br>類                      | 小型の蛾類の幼虫で、ほとんど<br>の樹木につき、葉を捲いたり、<br>細枝の間に糸を張って葉を食う<br>ものなど種々の加害形態がある。                             | 5月~10月 | 葉をつづった虫を捕殺する。デ<br>ナポン水和剤50、デイプテレッ<br>クス乳剤、カルホス乳剤、スミ<br>チオン乳剤などを散布する。                          |
| グンバイム<br>シ 類                    | ツツジ類、サクラ、ヒメリンゴ<br>などにつき、成虫は軍配形で、<br>幼虫は暗色で体にトゲがある。<br>被害葉はカスリ状に白く斑点状<br>の穴があき、裏面に黒いフンが<br>付着している。 | 5月~9月  | 盛んに加害している5~6月に、スミチオン乳剤、マラソン乳剤、<br>アス75などを散布する。  |
| カミキリム<br>シ 類                    | 多くの樹木につき、幼虫は樹皮<br>下を食害し、成熟すると材中に<br>入り、樹皮にあけた穴からは、<br>長い繊維状の木屑を出す。                                | 5月~9月  | 幼虫がふ化した直後に、スミチオン乳剤、バークサイドEを樹幹に散布する。木屑を見つけたら穴に、スミチオン乳剤、DDVP乳剤などの濃厚液を浸した綿をつめ、あとを土でふたをする。        |
| コウモリガ<br>類                      | 多くの樹木の幹や太枝に潜り、<br>周囲を輪状に食害し、フンと木<br>屑を糸で綴って穴から出す。   | 6月~9月  | 5月中旬頃までに、幼虫が潜っているヨモギなどの雑草を取り除き、その痕にデイプテレックス、スミチオンなどの粉剤を散布する。木屑を見つけたら、カミキリムシと同様に駆除する。          |
| コガネムシ<br>類                      | 幼虫は植物の根を食い (ネキリムシ)、成虫は葉を食う。成虫は主として、夜間に活動するので、被害の割りに虫が目につきにくい。                                     | 6月~10月 | 幼虫には、ダイアジノン微粒剤<br>F、トクチオン微粒剤Fを土壌<br>混和する。成虫には、スミチオ<br>ン、デナポンなどの粉剤、水和<br>剤を散布する。               |

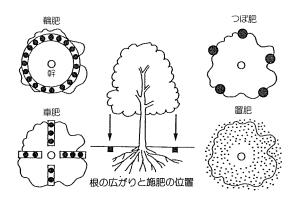
#### (4) 肥料のやり方

#### ア、施肥の方法

一般に樹木に施肥が必要な場合は、苗木の頃、花や実のつく時期の前後、整枝やせん定や刈り込み後、そして移植後などです。しかし、不用意な施肥を行うとかえって栄養バランスが乱れ崩れ、樹勢が衰えたり、病気の発生を助長することになります。したがって、樹木の成長の具合いや葉色などから判断して施肥することが大切です。

通常は"寒肥"か"お礼肥"程度にとどめておくのが無難です。寒肥とは、晩秋から冬にかけての成長休止期に行う施肥で元肥のことです。この時期ですと多少濃いめの肥料を施しても根を痛めることが少なく、雪解けの春になってから徐々に効き始めるという利点があります。寒肥として使用する肥料は、土や樹木によっても考慮する必要がありますが、堆肥や油かす、魚かす、骨粉などの有機質肥料がよく用いられます。化学肥料は堆肥と混ぜて施します。お礼肥は、花や実をつけたあとの樹木に、元気のよい花芽をつかせてやるための追肥のことをいいます。

施肥のやり方は、幹の直径の3~5倍離れた枝先の位置に円周の溝を掘って与える方法が一般的で"輪肥"と呼んでいます。このように土を堀り返して行う施肥法には、幹のまわりに放射状に行う"車肥"、枝先の位置の数カ所に穴を掘って行う"つぼ肥"



いろいろな施肥のやり方

# イ、肥料の要素

植物が必要とする要素のうち、チッ素、リン酸、カリは多量に吸収され、土中では不足しやすい。このことから肥料の三要素と呼び、カルシュームを加えて四要素とも呼ばれます。

鉄、マンガン、ホウソなどの微量要素は自然にある量でまにあいますので、 一般には施す必要はありません。

#### ウ、肥料の種類

含有成分、形態、性質などにより、肥料はいろいろに分類されます。

有機質肥料は、動・植物が原料となっている肥料で、堆肥、鶏糞、牛糞、油 粕などがあります。これらは、土中で腐敗分解して土中に吸収されるので、肥 効のでるのが遅いが肥効期間が長い。

多少施用量が多くても根を痛めるようなことはない。土壌の団粒化に効果が あります。

無機質肥料は、化学肥料とも呼ばれ、チッ素、リン酸、カリの一つの成分の みを含む単肥と2成分以上含む複合肥料とに分けられます。

また複合肥料には3要素によるものと、3要素と微量要素を加えたものがあ ります。また、そのほかに葉面散布肥料があります。

# ●市販されている主な肥料

|         |             | 肥料               | 名            | 成分<br>N | 含有图<br>P | ≝(%)<br>K | 特 徴 と 使 い 方                                    |
|---------|-------------|------------------|--------------|---------|----------|-----------|--|
|         |             | 油                | 粕            | 5       | 2        | 1         | リン酸肥料、カリ肥料を併合する。未熟なもの                          |
| ₹       | ī           | 鶏                | 糞            | 4       | 2        | 1         | は使用不可。<br>  元肥とする場合は植付け1週間前までに施す。              |
| 桥       |             |                  |              |         | _        |           | 石灰との混合不可。                                      |
| 9 月     |             | 米                | 糠            | 2       | 4        | 1         | チッ素肥料、カリ肥料を併合する。施用前に水<br>を加えておくとよい。            |
| 米       |             | 骨                | 粉            | 4       | 20       | -         | チッ素肥料、カリ肥料を併合する。                               |
|         |             | 魚<br>発 酵 油       | 粕粕           | 8       | 3<br>6   | 2         | 油粕と同じ。<br>油粕と同じ。多少使いすぎても無害。                    |
|         |             | 硫                | 安            | 21      | _        |           | アルカリ性肥料と混用しない。大量使用すると                          |
|         |             | E                | 素            | 46      | _        |           | 障害がでるので注意。<br>大量使用は不可。葉面散布に用いてもよい。             |
|         | 単           | 尿<br>過リン酸る       |              | 40      | 17       | _         | 世肥などに混ぜて施す。尿素、草木灰、消石灰<br>地肥などに混ぜて施す。尿素、草木灰、消石灰 |
|         | Ċ           | 熔成リン             | <b>.</b> 800 | _       | 20       | _         | との混用は不可。<br> 火山灰土のリン酸補給に好適。アンモニアを含             |
| 無       | 肥           |                  |              |         | 20       |           | む肥料との混用不可。                                     |
|         |             | 硫酸カ              | 1)           |         | _        | 50        | カリ分の少ない有機質肥料と併合する。大量使<br>用は不可。                 |
| 機       |             | 草 木              | 灰            |         | 3        | 6         | 酸性土壌改良によい。アンモニアを含む肥料と                          |
|         | 71.         | ファミリー            | ( b et:      | 15      | 15       | 15        | は混用しない。<br>高度化成肥料。草花、野菜に。微量要素は含まない。            |
|         | 化成          | エードボー            |              | 12      | 12       | 12        | 高度化成肥料。草花、野菜、鉢物に。肥効期間                          |
| 質       | 肥           | マグアン             | プ K          | 6       | 40       | 6         | は2~3か月。<br>低度化成肥料。鉢物の元肥に好適。肥効期間は               |
|         | 料           | . , , , , .      | <i>-</i>     | Ů       | 10       |           | 2~3か月。   |
| 肥       | 配合肥料        | ハイポネッ            |              | 6.5     | 6<br>12  | 19        | 1000倍くらいに薄めたものを液肥として鉢物に。<br>ハイポネックスと同じ。        |
|         | 海 液         | プラントフ            | ットード         | 12      | 12       | 16<br>8   | 草花、植木、花木、芝生に。                                  |
|         | 体肥          | エード              | F            | 5       | 5        | 5         | 葉面散布肥料。草花、観葉植物に。                               |
| 料       | 料圖          | ローンフラワ           |              | 8       | 6        | 6         | 観葉植物、野菜、植木、花木、果樹、芝生に。                          |
|         | <b>圓形肥料</b> | ガーデンキンク<br>リ ピ ー | ィSB<br>ト     | 6 5     | 5<br>30  | 5<br>20   | 豆炭状。植木、花木に。<br>棒状。鉢物専用。肥効期間は約2か月。              |
|         |             | 苦 土 石            | 灰            | -       |          | _         | 酸性土を中和する場合に使用する。植付け1週                          |
|         | 石灰質肥料       | 消 石              | 灰            | _       | _        |           | 間までに施すこと。<br>苦土石灰と同じ。                          |
|         |             | 花の               | 友            | 6       | 6        | 6         | 草花、野菜に。元肥とするときは堆肥や腐葉土                          |
| イ 枝 西 石 | <b>受</b> 己分 | 有機園芸月            | 田事           | 9       | 9        | 9         | に混ぜて用いる。<br>草花、野菜に。鉢植には追肥として置肥する。              |
| 1 別米    | 면<br>구      | 有饭图云师完全配合师       |              | 7       | 6        | 5         | 草花、野菜に。肥効期間は2か月。                               |

#### (5) 庭木の防寒と雪囲い、雪吊り

#### ア、雪害防除の目的

庭木の防寒、雪囲い、雪吊りは、冬の寒さや雪害から大切な庭木を守るため に行うものです。

北陸地方独自の冬の風物詩として、人に見せるための防寒や雪囲い、雪吊りがあります。代表的なのが金沢の兼六公園です。

しかし、最近ではどこの家庭でも素晴らしい雪囲いや、雪吊りを見ることが できますが、これには多くの材料費や労力が必要となります。

#### イ、防寒

防寒は寒さに弱い植物を、冷たい寒気から守るために行われるものです。主として、ソテツ、ドラセナ、ユッカランなどの特殊樹木、クチナシ、柑橘類など比較的寒さに弱い植物に対して行います。また、サザンカやベニカナメなど秋に植え付けた場合は、その年の冬だけでしっかりと防寒をしてやる必要があります。

寒ボタンやツバキの開花株でも同様に防寒をしてやります。

#### ウ、雪囲い

雪囲いは、比較的背丈の低い庭木に対して行われるもので、数本の支柱を添えたり、あるいは枝葉をそのまま抱え込むようにして、結びつける方法があります。

多くの荒縄を使って素晴らしい雪囲いの仕方がありますが、雪の降る前のわずかな期間しか観賞することができませんので、早いうちに手がけて北陸ならではの情緒を楽しみたいものです。

#### エ、雪吊り

雪吊りは、クロマツ、アカマツ、ラカンマキなどの樹高の大きいものについて行う方法です。支柱に丸太などを使い、荒縄を放射状に広げて枝を吊り上げて雪の重みから枝折れを防ぎます。

# オ、必要資材

- (ア)支柱……丸太、丸竹、割り竹、カラー鋼管
- (イ)縄……荒縄 (2分、2.5分、3分)、シュロナワ、ビニール紐
- (ウ)防寒具…荒ムシロ、寒冷紗、ススキ、ヨシ、稲ワラ
- (エ)その他…三脚、脚立、木づち、テコバール (1.5m位のもの) 植木ハサミ、 せん定ハサミ、刈り込みハサミ

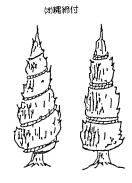
#### カ、樹種別の防寒、雪囲い、雪吊りの仕方

- (ア)**合掌型** サツキ、玉イチイなどを列植した場合に用いられる方法で、骨支柱は丸竹を利用し、横縄で枝葉の垂れ下がるのを防ぐと同時に、工夫を凝らして見た目に美しいものとする。
- (イ)**藁保温囲い** ソテツ、ヤシなどの防寒の必要な樹種を篠竹か割竹を4~5 本添え、まとめてからワラで覆う。最初下部を地際で折曲げて円形に敷き つめ、基部をシュロ縄で結ぶ。その上部を1カ所結び、それが見えない程 度に次のワラを重ねて結ぶ。以後同様に繰り返し、最後に傘状に編みこん だワラボッチをかぶせる。
- (ウ)**莚保温囲い** モッコク、ベニカナメの苗木や、クチナシ、柑橘類など初冬に植え付けたような庭木の保護のため、三脚を組み、その周囲に荒ムシロなどを巻く。特にモッコクの苗木などは、冬期枝に弾力がなくなり、わずかな積雪でも枝折れがする。
- (エ)**円錐型** 三脚を組み、さらに縄で縛るのはタギョウショウ、コニファー、アオキなどに多く用いられる方法です。
- (オ)**縄締付** コノテガシワ、ヒムロスギ、ヒバ類などの2~3mの高さの庭木 に対して多く用いられる方法で、縄でグルグル巻きあげる場合と、3~4 カ所を結わえる場合とあります。比較的横幅のある木に適します。
- (カ)**小しぼり** アオキ、コデマリ、シモツケ、ヤツデ、ドウダンツツジなど低 木類に用いる最も簡単な方法です。
- (キ)**三又締付** 3本の支柱を添えたものです。やや背の高い常緑樹に用いられる方法で、積雪の重みから倒伏するのを防いでくれます。
- (グ)**添しぼり** 横幅のあるものに対して行われますが、この方法は細長いもの について行います。支柱を1本土中にしっかり差し込み、縄で数カ所縛る かグルグル巻にします。

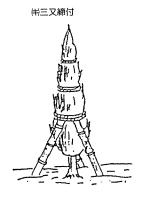


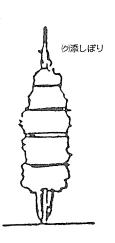












- (ケ)**竹支柱、縄しばり** 公園、公共緑地などで玉物、低木類を数本寄せて植え付けられている場合に、まとめて雪囲いをするのに用いられる方法です。 株元は、縄で2巻ほどするか、割竹で囲むとよい。
- (コ)**棚縄吊り** 植えますや、石垣の上に列植したサツキ、イチイ、マメツゲなどの玉物によく行われる方法です。美観的にも大変よいものです。
- (サ)**四ツ目垣** サツキ、イチイ、ツゲ、ハクチョウゲなどの大型の玉物や、列 植してある物に対し、四つ目垣で囲む方法です。見た目にも美しく、効果 も大きいですが時間と費用を多く必要とします。
- (シ)**竹じめ** 常緑樹で生け垣をつくった場合、丸竹で両側から挟む簡単な方法 もあります。ただし、葉幅の狭い場合に有効です。
- (ス)**藁保温囲い** ボタン、ツバキなどの防寒に用いる方法です。とくに寒中に 咲く寒ボタン、早咲きツバキの開花株を寒さから守りながら、花を観賞す ることができます。
- (ゼリンゴ吊 クロマツ等の主木に、美しい三角錐状に雪吊りを施したもので、中心に丸太か丸竹を立て、頂部から必要な本数の荒縄を引いて、枝を吊り上げる方法です。背丈が高くて、適当な丸太などが入手できない場合は、支柱を用いないでしっかりと結わえるか、支柱を用いないで直接幹に縄を縛りつけ、下部の枝を吊り上げることもあります。

